

指定管理者制度導入施設の管理運営実績について(平成27年度)

施設名	県立平和台公園・宮崎県総合文化公園
指定管理者	株式会社馬原造園建設
指定期間	平成27年4月1日～平成30年3月31日(3年間)
県所管部課	県土整備部 都市計画課

1 施設利用状況

指標	H27	H26	H25	増減理由等
平和台公園(単位:人)	55,076	49,784	27,694	平和台公園広場の利用者数が平成26年度に大幅に増加したのは、前年度にアスレチック広場の改修工事が完成したためと考えられる。
文化公園(単位:人)	45,521	42,435	46,226	
コメント	「はにわ館」の利用減に歯止めがかかった形であるが、はにわ等の大量寄贈による展示品の充実起因要素が大きく、今後も、施設をより一層周知するための広報の在り方等、利用者増に向けた対応が必要である。また、平和台公園広場の利用者数はH24までには回復しておらず、こちらも同様の対応が必要と考えられる。			

2 施設収支状況

(単位:千円)

収入	H27	H26	H25	支出	H27	H26	H25
指定管理料	82,600	85,577	80,800	人件費	51,911	50,383	50,531
自主事業等	341	583	2,672	需用費・役務費	16,824	15,367	14,756
				委託料・使用料等	8,548	8,095	8,399
				経費	3,352	6,455	6,317
				自主事業等支出	2,006	3,075	2,666
合計(①)	82,941	86,160	83,472	合計(②)	82,641	83,375	82,669
収支差額(①-②)	300	2,785	803				
コメント	H27の支出増は、主に人件費と需用費の増に起因する。						

3 管理運営状況

事項	実施内容	
維持管理業務	清掃	園内清掃、トイレ清掃、管理事務所・はにわ館清掃、照明器具清掃、集水枦清掃、園路洗浄
	保守・点検	遊具点検(専門業者年3回、通常点検月1回)浄化槽点検(適時)、照明及びタイマー点検(月1回)等
	警備	巡回パトロール(2回/日)・夜間巡回警備
	修繕	園路、トイレ手洗いセンサー、水銀灯、遊具、ベンチ等の修繕
	備品等管理	備品点検(1回/月)、備品台帳による管理
	安全対策	安全会議・公園非常管理マニュアル勉強会(1回/月)、近隣小学校PTAとの連携による「おたすけハウス」加入、公園ハザードマップの随時更新、支障樹木・枝等の剪定
その他	植栽管理業務(樹木・芝・花壇等)、動物飼育業務(鳩)、施設維持管理業務(園路・遊具・トイレ他)	
企画運営業務	サービス提供体制整備	利用者アンケート調査、憩いグッズ(バドミントンセット、縄跳び、ブルーシート等)の貸出、職員研修実施、公園運営管理情報システムの活用
	イベント等	花の無料配布、ツリーイング体験会、フラワーアレンジメント教室、苔玉づくり教室、観望会、公園マップの改訂、HP作成・更新等
	施設設備等	レストハウス周辺携帯電話用アンテナ設置、管理事務所不在時の職員転送電話(緊急時体制の充実)、文化公園トイレに意見交換掲示板設置
	ハード面充実	自主事業時のアンケート実施、公園ボランティア協議会、レストハウス協議会、文化公園3館協議会、花菖蒲ネットワークづくり、パークマスター友の会
管理運営体制	有資格者の適正な配置(造園施工管理技士、土木施工管理技士、ピオトープ)、資格取得に向けた研修会参加、個人情報保護教育	
コメント	公園運営管理情報システムの運用、及び公園利用者満足度調査等(アンケート調査、利用の声等)により、利用者のニーズを迅速かつ的確に把握してその後の事業展開に反映させると共に、施設の適正な保守点検や植物の適切な維持管理に役立っている。	

4 利用者満足度状況(利用者満足度調査、苦情・要望対応)

調査等方法	来園者アンケート調査、イベント時アンケート調査	
調査結果、主な苦情・要望内容	その対応結果等	
(平和台公園)マナーの悪い(犬のフーリード・糞放置等)利用者を注意して欲しい。	注意・指導及び巡回の強化により対応した。	
(文化公園)駐車場に目的外駐車車両が多い	注意・指導及び巡回の強化により対応した。	

5 総合評価

評価コメント	利用者のニーズ及び苦情等の把握に努めると共に、その結果を利用者サービスの向上に繋げるべく努力している。また、障がい者就労支援や「宮崎の教育」アシスト事業等の地域貢献にも積極的に取り組んでいる。
今後の課題と対応	引き続き文化施設(公益財団法人宮崎県立芸術劇場・県立図書館・県立美術館)の管理者と意思の疎通を図ることにより、最大の懸案であるイベント時の駐車場対策等に取り組むと共に、両公園が近傍に在るといった特色を活かし、相互連携を図っていくことも必要である。